

茨城の学生が考える「結婚・子育て観」 & 「少子化対策」

常磐大学

総合政策学部 法律行政学科

吉田ゼミナール



2023. 9. 20

茨城県議会

・調査特別委員会

○大学生アンケート回答者の分布

性別	男性	女性	回答しない	計
常磐	121	130	5	256
流通経済	50	5	1	56
茨城	5	6	1	12
計	176	141	7	324

総計324人の
回答！
流通経済・茨城大
にもご協力いただき
ました。
…若干男性が
多め！

年齢	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	27歳
常磐	43	82	61	49	18	2	1
流通経済		22	23	9	2		
茨城	5	3	4				
計	48	107	88	58	20	2	1

大学生の「結婚観」・「子育て観」は？

結婚したいと…



0 100 200 300 400

子どもを
持ちたいと…



「結婚したい人」は全体の75%、「子供を持ちたい人」は全体で69%

○結婚したいと「思う」と回答した人で子供を「持ちたくない」と回答した人
男性:11名、女性:12名、回答しない:1名 計24名(7.4%)

○子供を持ちたいと「思う」と回答したで結婚したいと「思わない」と回答した人
男性:2 女性:2名 計4名(1.2%)

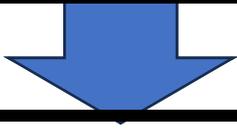
➡**結婚と子供を持つことが結びついていると推察される**

アンケートで何を見いだすか

(1) 恋愛・結婚をどう考える？



(2) 子育てをどう考える？



**(3) 少子化問題・対策への理解・
意見等は？**

(1) 恋愛・結婚をどう考える？



「結婚して夫婦で子供を産み育てることは
当たり前で自然な流れだ」
という意見についてどう思いますか？

その通りだ	85	(26.2%)
違和感があるが おおむねその通りだ	131	(40.4%)
一理あると思うが理解できない、 間違っていると思う	60	(18.5%)
時代錯誤で古臭い意見だ、 間違っている	39	(12.0%)
その他	9	(2.7%)

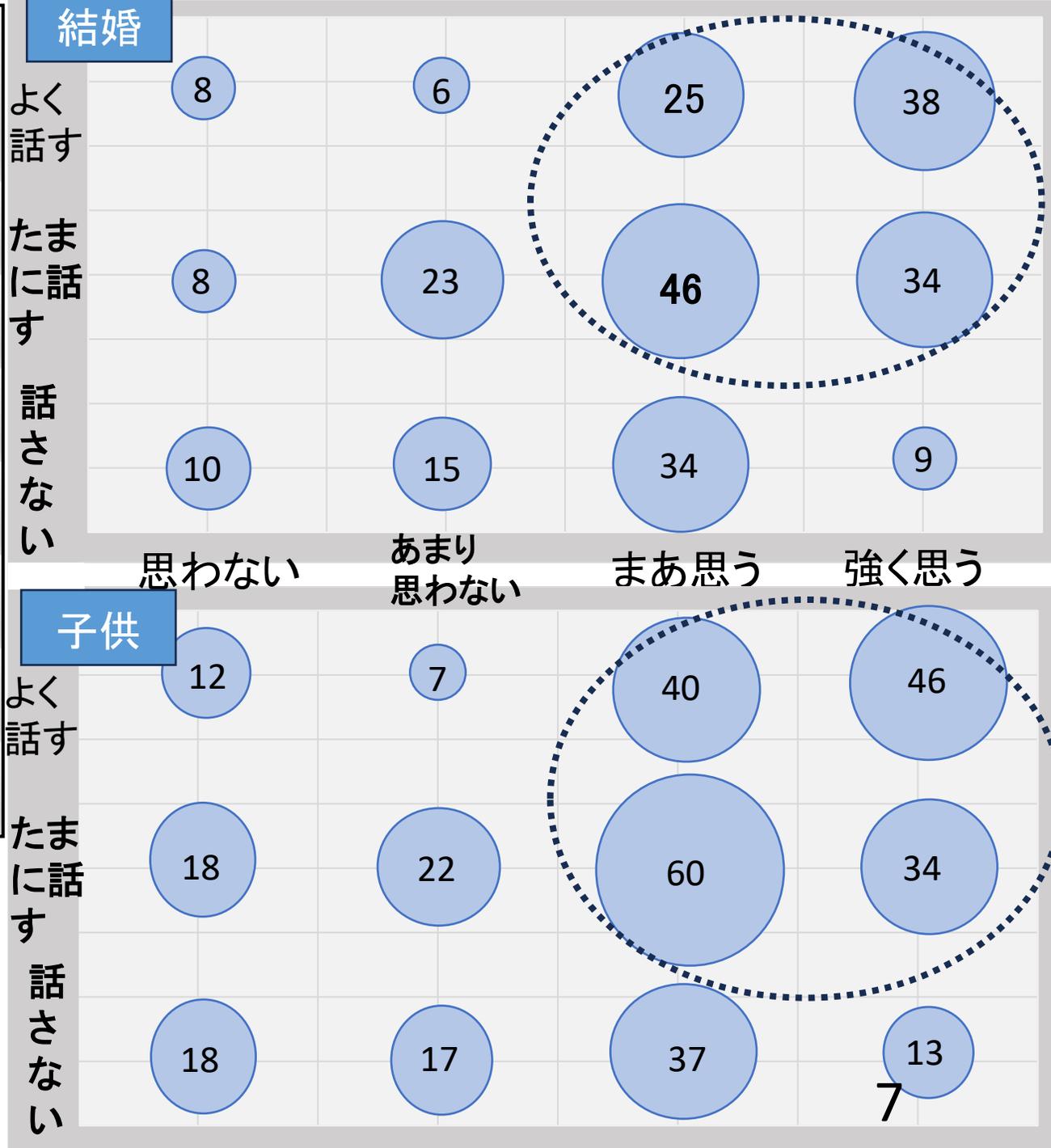
■「結婚」や「子育て」
を当然のこと、自然な
流れといった考えを全
面的に肯定する人は
少数派であった。

■「違和感」、「理解で
きない」、「時代錯誤」
が70パーセント超
…従来型と異なる若
者の考えの変化が見
て取れた。

結婚や子供を持つことについて 親や友達と話す機会

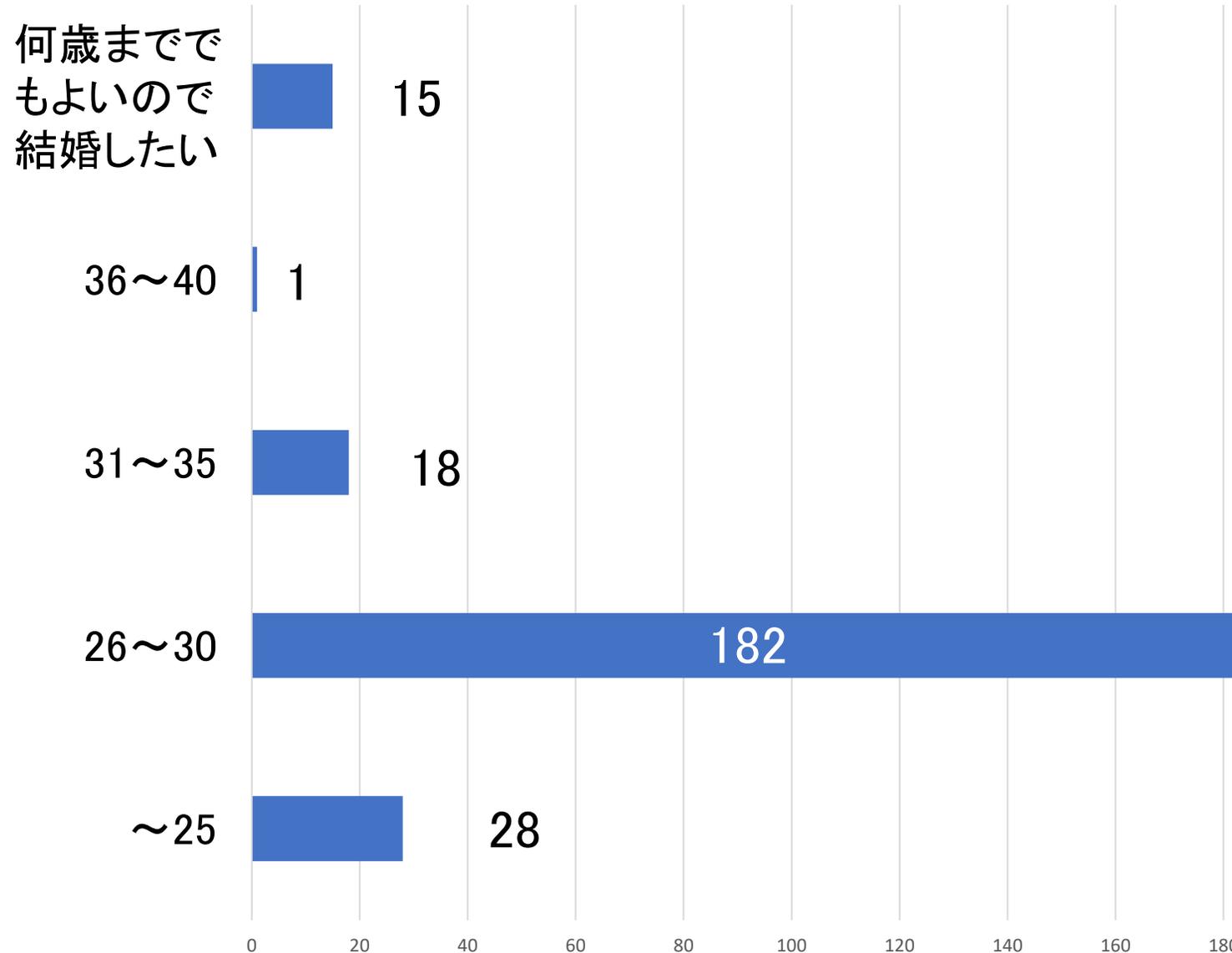
どちらともよく話す	38 (11.7%)
親とよく話す	16 (4.9%)
親とたまに話す	43 (13.2%)
友達とよく話す	47 (14.5%)
友達とたまに話す	91 (28.0%)
どちらとも話さない	85 (26.2%)
どちらともたまに話す	4 (1.2%)

「結婚や子供を持つことに前向きな人」と、「これらのことを周りの人と話す機会がある人」とは強い相関があることが明確に！



何歳までに結婚したいか？

※「結婚したい」「どちらかという」として回答した241名対象



20代での結婚を望む学生が圧倒的である！

20代で結婚出来れば子供を複数人持つことがより可能となるため、早期の結婚願望を実現する支援が少子化対策への直接的なアプローチとなる可能性がある

「結婚をしたいとは思わない」の80人
…さて、その理由は？

※二つ以内回答可

自分の時間が無くなる	37
必要性を感じない	27
経済面での不安	26
両親の影響	19
自分に自信がない	14
出会いの場・異性とのかかわりが ない	7
苗字が変わることの弊害	5
その他	5
異性への無関心	3
相手に求めるハードルが高い	3

○男性27人

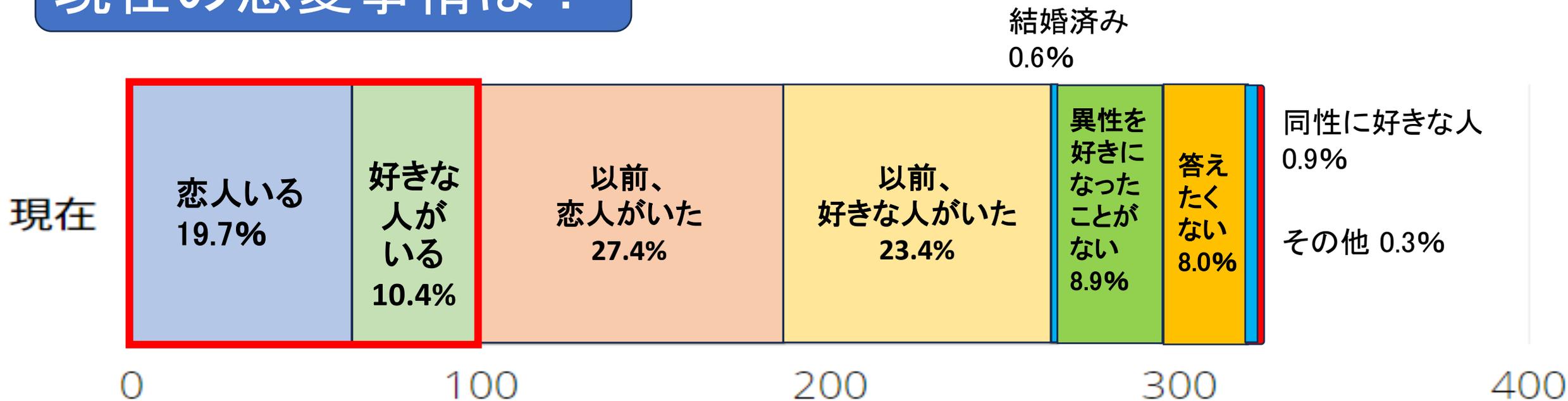
- ・自分の時間が無くなる
- ・経済面での不安
- ・必要性を感じない

○女性39人

- ・経済面での不安
- ・自分の時間が無くなる
- ・必要性を感じない
- ・自分に自信がない
- ・苗字が変わることの弊害

「両親の影響」を受けている」人が比較的多く(19人:23.7%)、親が余裕をもって結婚生活を送ることができることが重要である

現在の恋愛事情は？



現在「恋人がいる」「好きな人がいる」⇒約30%

(冒頭の調査結果)「結婚願望のある人」⇒約75%

ギャップ: 45%

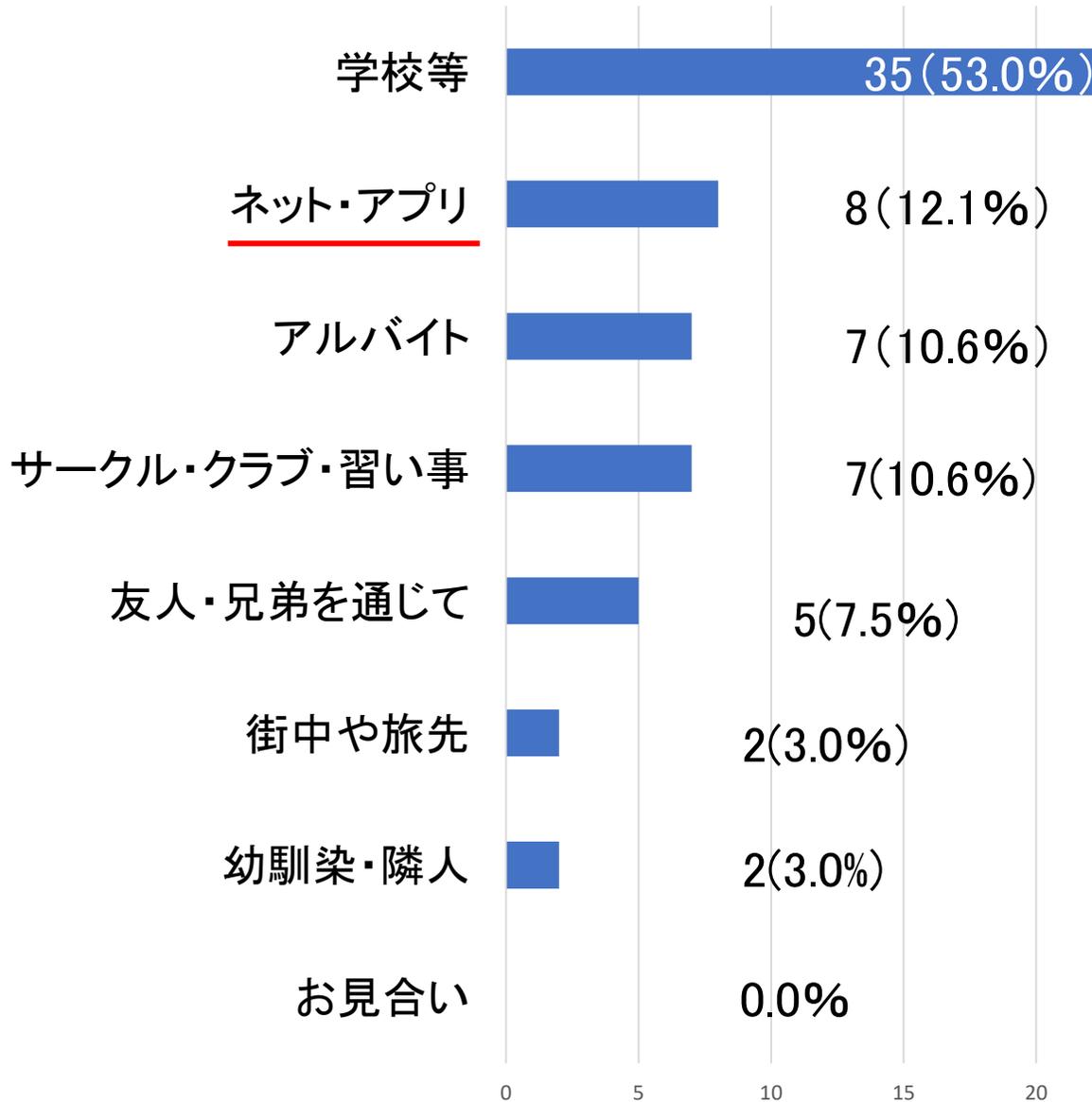
■「異性を好きにならなかったことがない」⇒8.9%(29名)

⇒若者が積極的に恋愛を行う姿勢が失われつつある恋愛離れの現状か？

★このようななか(恋愛は個人の自由)、恋愛・結婚へ行政はどう関与していくべきか？

出会いの場は？

(現在恋人(婚姻含む)がいる66人対象)



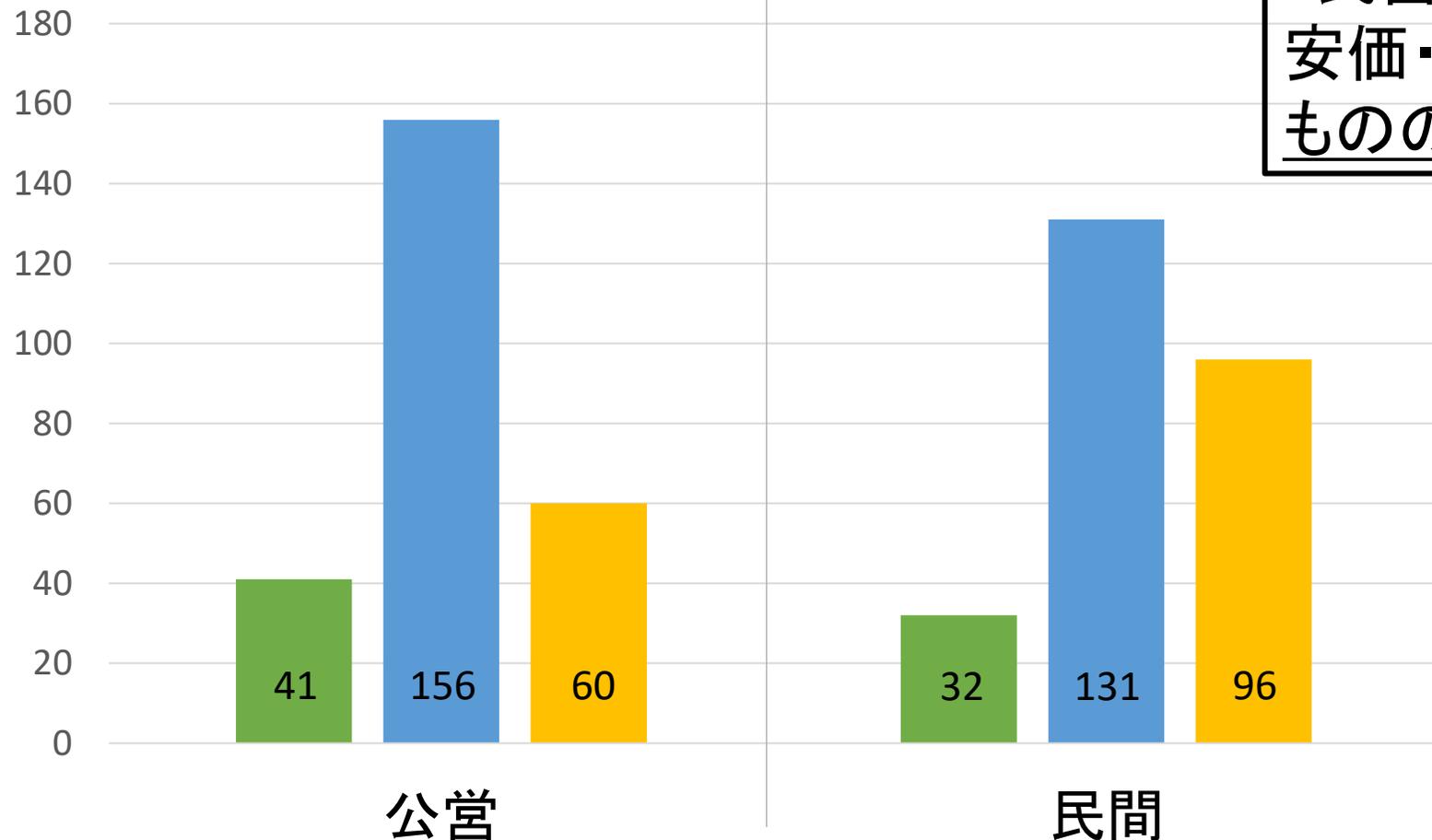
「学校」での出会いが過半数で断然トップ！

次点が「ネット・アプリ」
…ネットへの接触が世代の特徴か？

【ただし、全体的には…】
積極的な出会い(ネット・アプリ、街中・旅先等)よりも、自身のコミュニティ(学校・バイト先・友人紹介等)での恋愛発展が多い印象

出会い系アプリ(婚活サイト)の利用意欲は？

単位：人



・民営のマッチングアプリ等よりも安価・安全に利用できる公営のものの方がよい評価となった。

しかし、全体的に積極的に利用したいとの回答は少数であった。

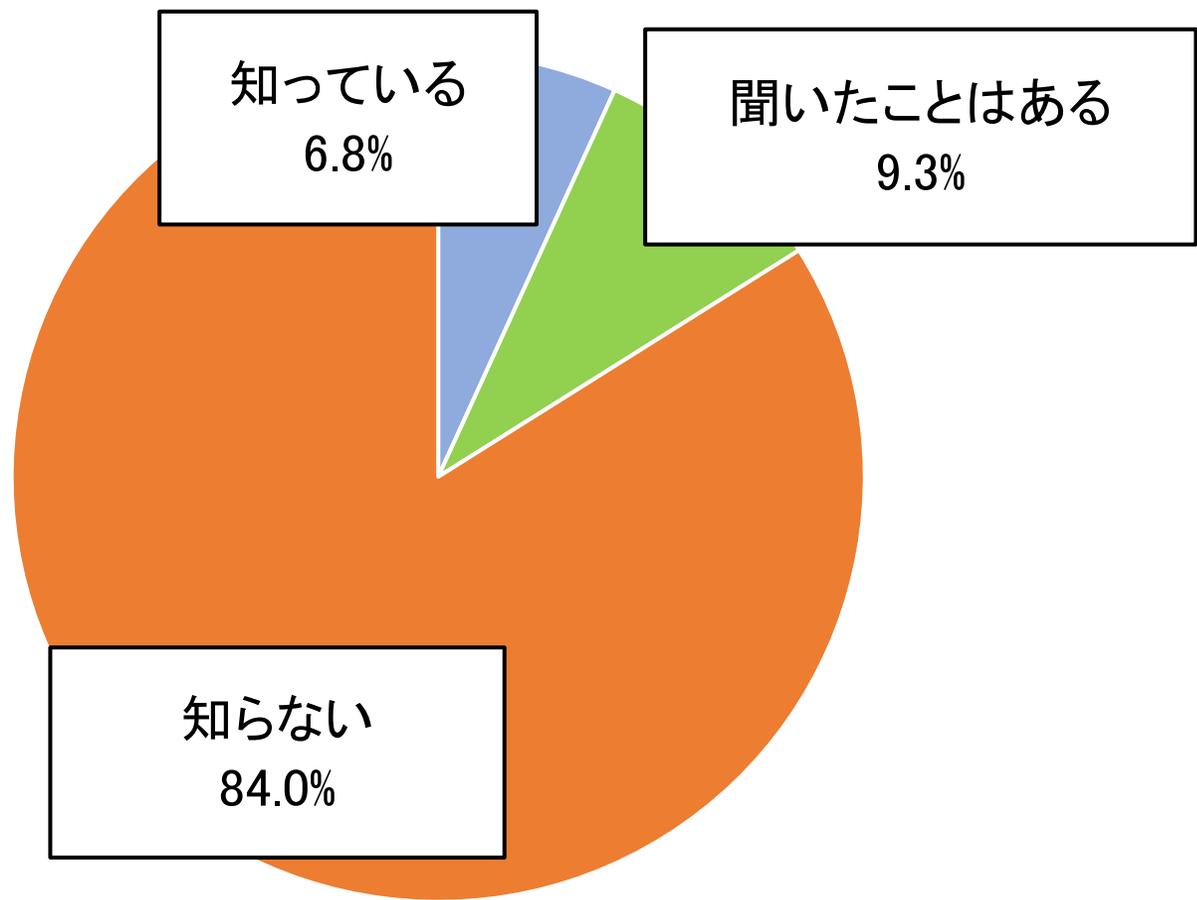
「切羽詰まってきたら利用したい」をどれだけ早くから引き込めるかも重要

積極的に利用したい

切羽詰まってきたら
利用したい

絶対に利用したく
ない

「(一社)茨城出会いサポートセンター」 について知っているか？



既に、県の政策を勉強しているゼミ生を除くと、『知っている』と回答したのはわずか8人と少数。

切羽詰まってきてから初めて県の施策や制度を知るのが現状では。



若い世代への周知を強化(特にSNSなどの活用)して、安価で安全に利用できるサポートを充実させ、利用者を増やすことが必要

行政のどんな支援があったら結婚したい・できると思うか？

※二つ以内回答可

結婚生活スタートアップに関する経済的援助

229 (70.6%)

正規雇用の就労支援

126 (38.8%)

結婚祝い金の増額・充実

107 (33.0%)

出会いの場の提供

56 (17.2%)

選択的夫婦別姓の実現

30 (9.2%)

行政にできることはない

18 (5.5%)

その他(子供に関わる費用支援)

5 (1.5%)

その他

3 (0.9%)

自身の学費や奨学金に関わる支援

3 (0.9%)

結婚費用補助・祝金の充実等経済面での支援が多数を占めた

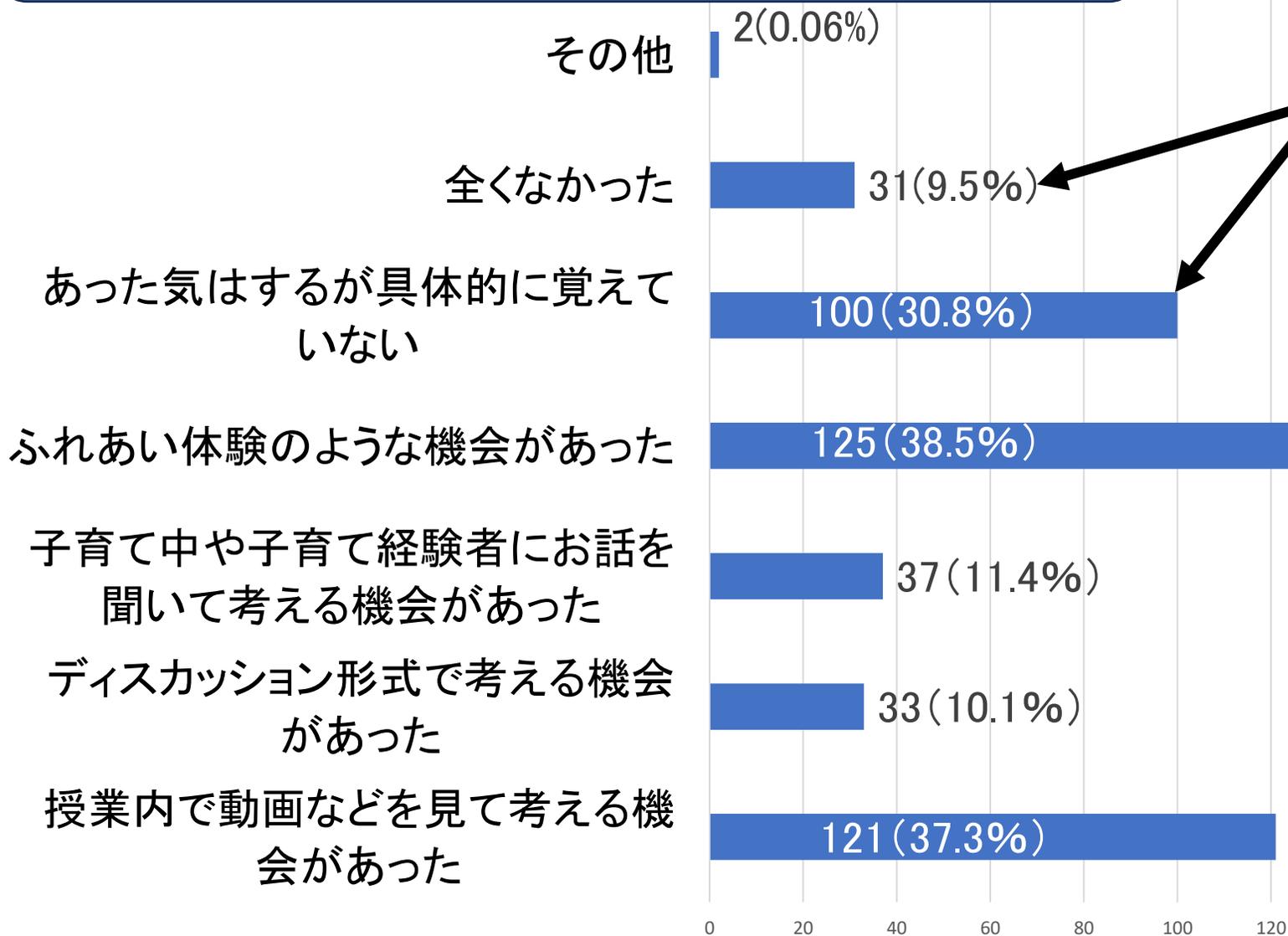
しかし、自由記述やヒアリング結果でも「困窮などによる離婚の増加」を懸念・心配する声も多数あり、一時的な経済支援施策よりも「正規雇用の就労支援」など自立支援や、継続的な支援を拡充すること、それら制度を周知し利用を促すことが重要では。

(2) 子どもを産み育てることを どう考える？



学校で子育てについて考えたり 学ぶ機会があったか？

※当てはまるものすべて選択



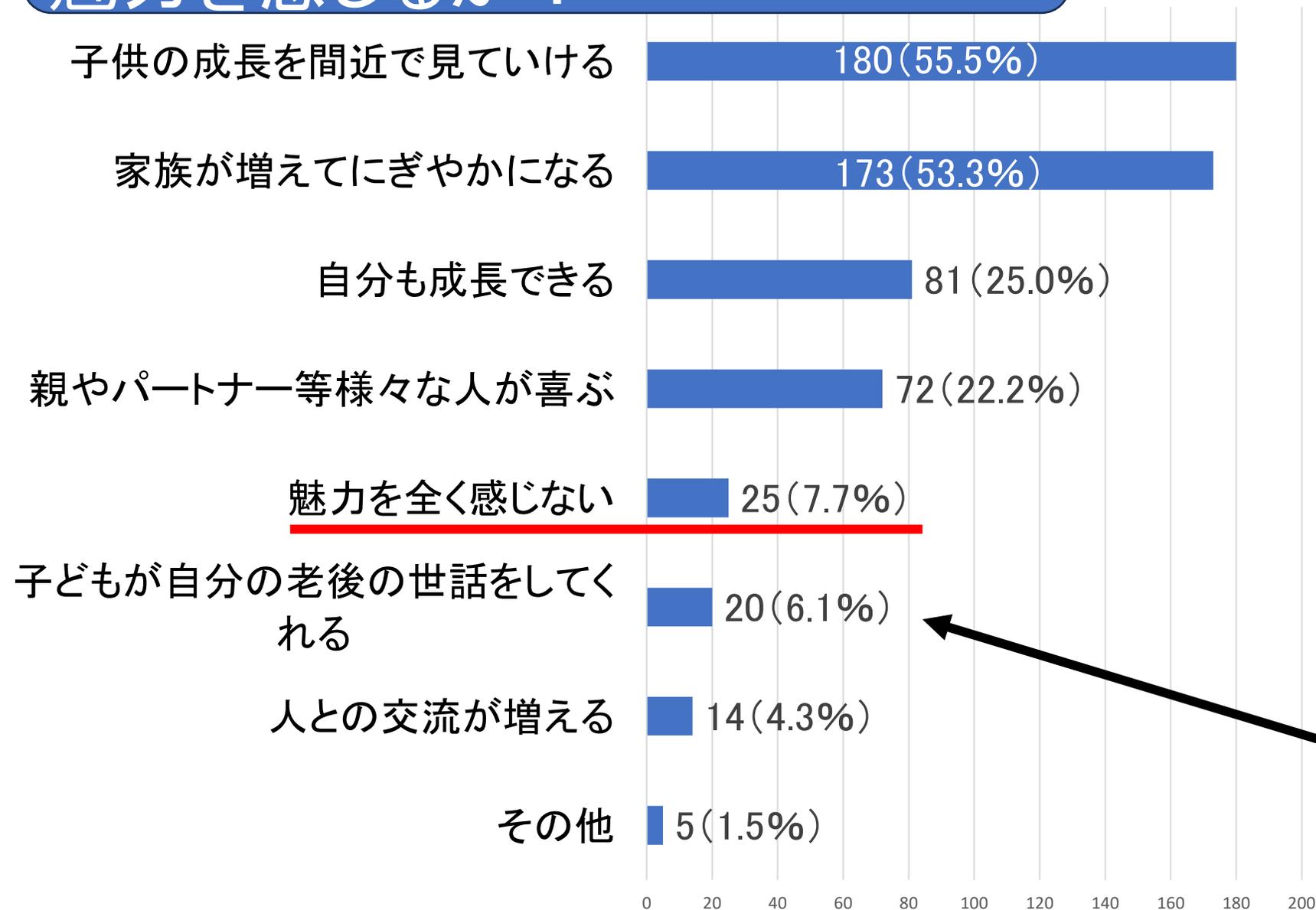
「あった気はするが具体的に覚えていない」「全くなかった」と131人(約4割)が回答。

よい記憶となって残るような子ども・子育てに触れあう経験が、将来子供を持つ・持ちたいという具体的なビジョンにつながるのでは。

実際の子育て中・経験者の話をお聞きするなど具体的で生活に密着した記憶に残るような体験が必要では。

子育て、子供を持つことのどこに魅力を感じるか？

※二つ以内回答可



■「全く魅力を感じない」は25人(7.7%)いたが、ほとんどが子供を持つことについて何かしらの魅力はあると回答した。



具体的な傾向は

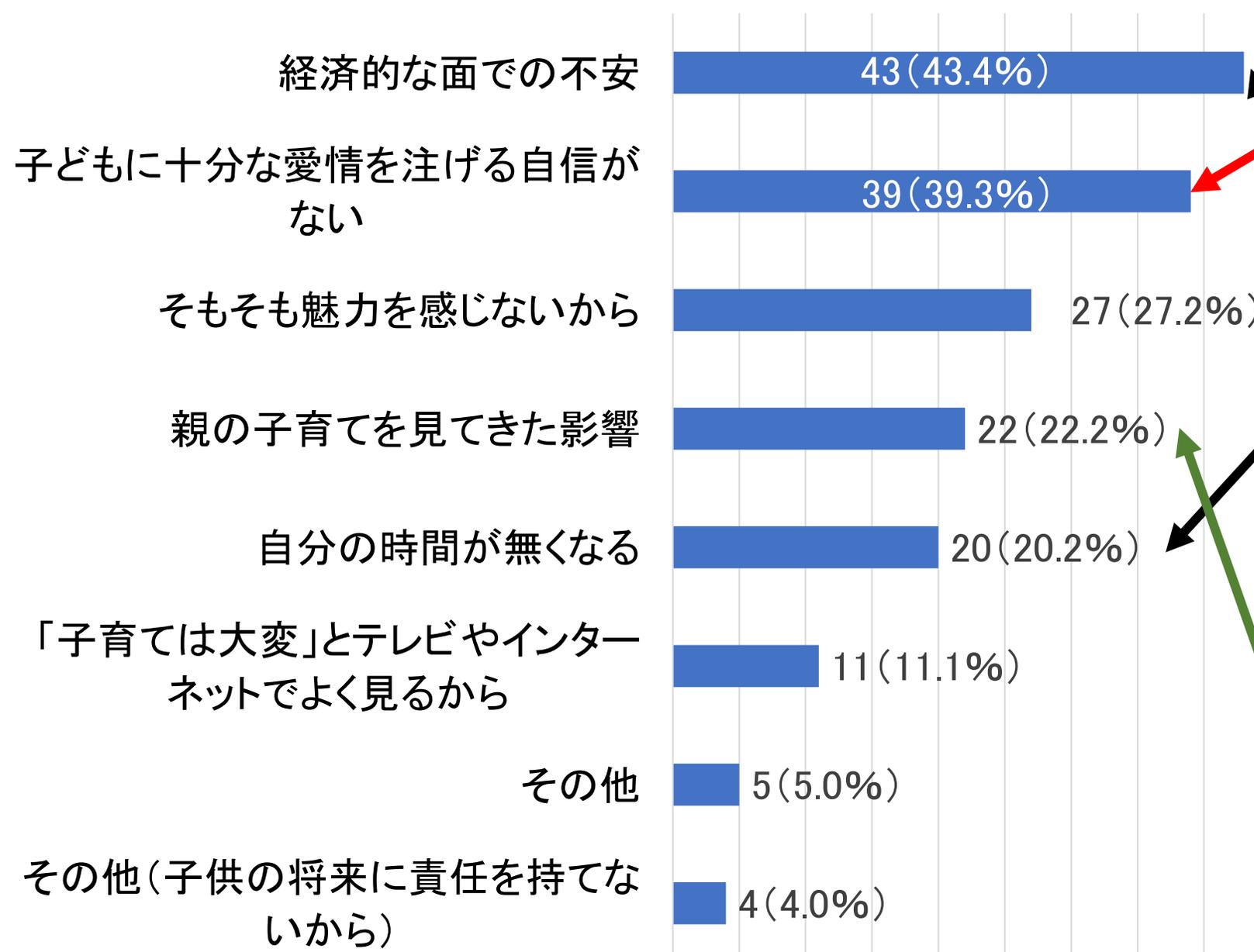
■「成長を実感」「にぎやか」「みんなが喜ぶ」などの幸せ実感を多数があげた。

■「自分の面倒をみてくれる」等は少数。



「子供を持ちたくない」と考える理由は

「持ちたいと思わない」99人を対象
二つ以内を選択

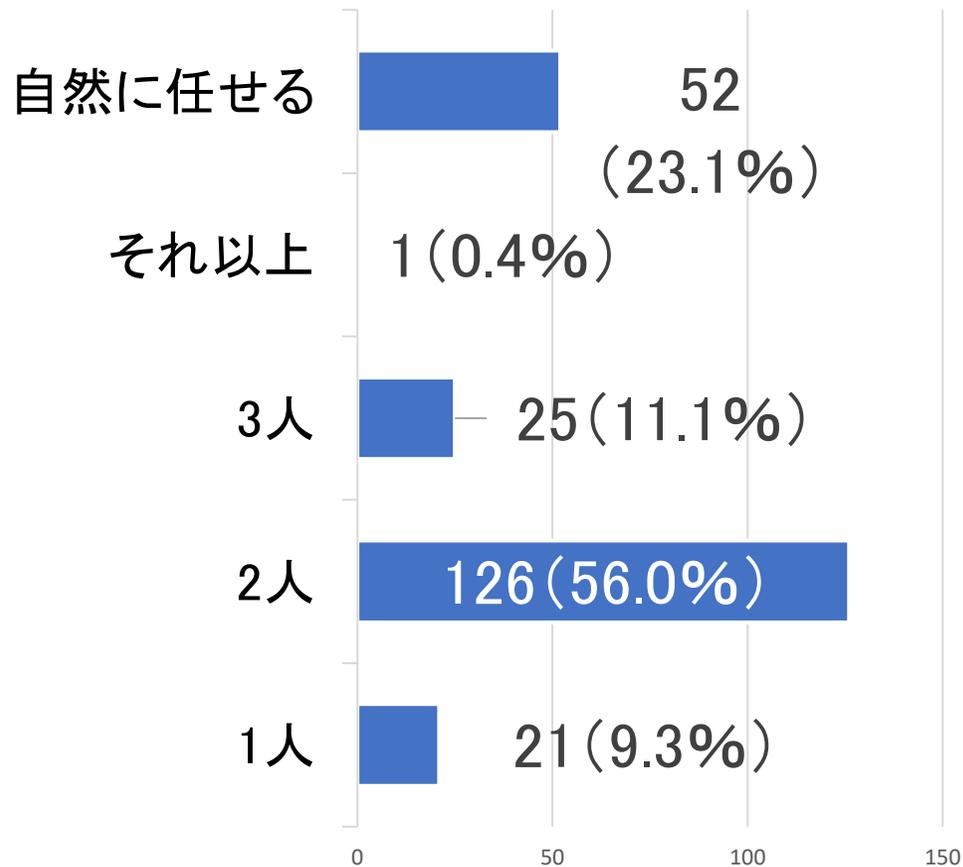


「子供に十分な愛情を注げる自信がない」が上位にランクされ意外に感じた。

「経済面での不安」、「自分の時間が無くなる」と一緒に選択した人が多かった。自分自身の生活が圧迫されることなどによって、精神的な余裕がなくなり、結果として「子供への愛情が持てなくなる」と懸念する意見に繋がると推測。

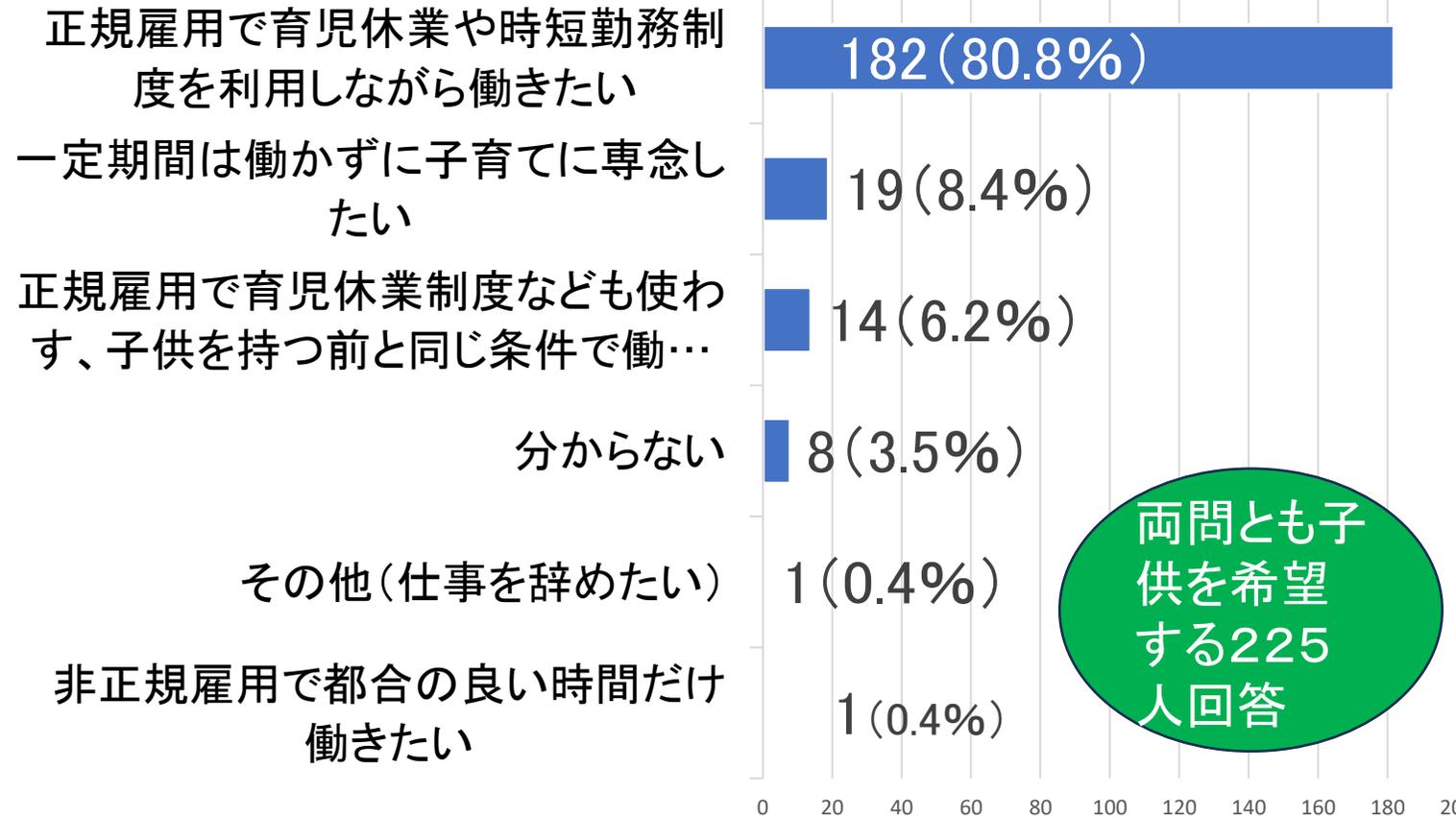
「親の子育てをみてきた影響」(22.2%)も考えさせられる。 18

何人子供が欲しいか？



「3人以上」は26人(11.5%)
人口減少・少子化対策として、もっと希望人数を上げる必要があるのでは。

子育て中の働き方の希望は？

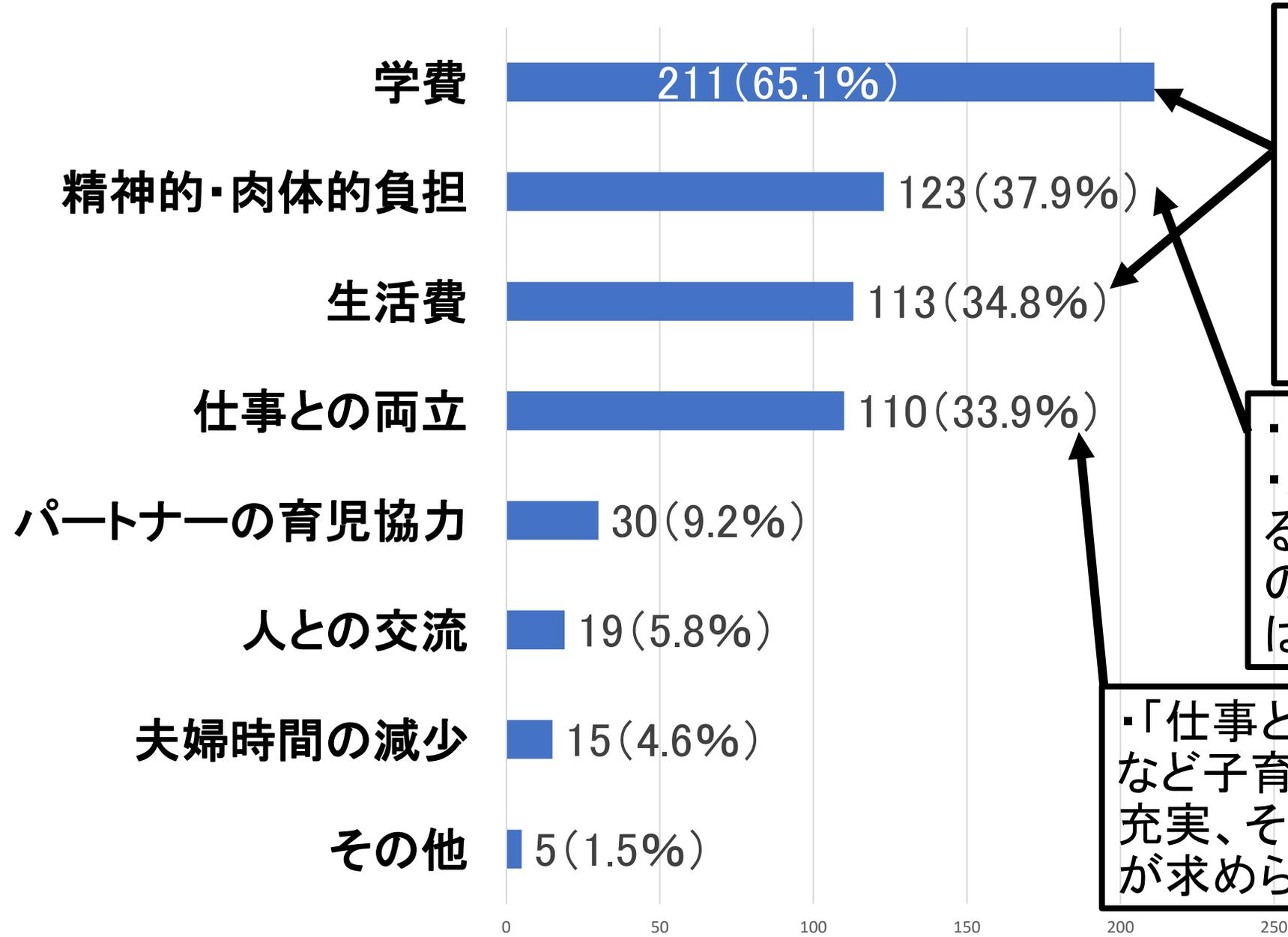


両問とも子供を希望する225人回答

・「正規雇用で育児休業や時短勤務制度を利用しながら働きたい」が男女とも圧倒的。
・男性でも利用できる制度の充実や、それを取りやすい会社・環境が求められている。

子育てで「大変」「心配」だと思うことは？

※二つ以内回答可



やはり経済面での不安が上位を占めた。
『学費』については私立大生が回答者に多いことも要因と考えられるが、国立大生の回答者が少ないためその比較はできなかった。

・「精神的・肉体的負担」が2位
・親の負担・ストレスを軽減する意味で短期的に預ける施設の充実も図る必要があるのでは。

・「仕事との両立」も多く、育休や有休など子育てと仕事を両立できる制度の充実、それを取得しやすい環境づくりが求められる。

何があったら子供を持ちたいか

	1位	2位	3位	計
1) 子育て支援金	178 (54.9%)	61 (18.8%)	44 (13.5%)	87.3%
2) 子育て用品の提供	13 (4.0%)	43 (13.2%)	37 (11.4%)	28.7%
3) 子供医療費補助	21 (6.4%)	60 (18.5%)	76 (23.4%)	48.4%
4) 保育所の充実	23 (7.0%)	40 (12.3%)	48 (14.8%)	34.2%
5) 学費支援	90 (27.7%)	95 (29.3%)	53 (16.3%)	73.4%
6) 公共施設利用での優待	3 (0.9%)	7 (2.1%)	17 (5.2%)	8.3%
7) 就労支援	11 (3.3%)	25 (7.7%)	48 (14.8%)	25.9%
その他	3 (0.9%)	0 (0.0%)	5 (1.5%)	2.4%

学生は、自らが置かれた環境からか、
「学費支援」を求める声が73.4%と多数

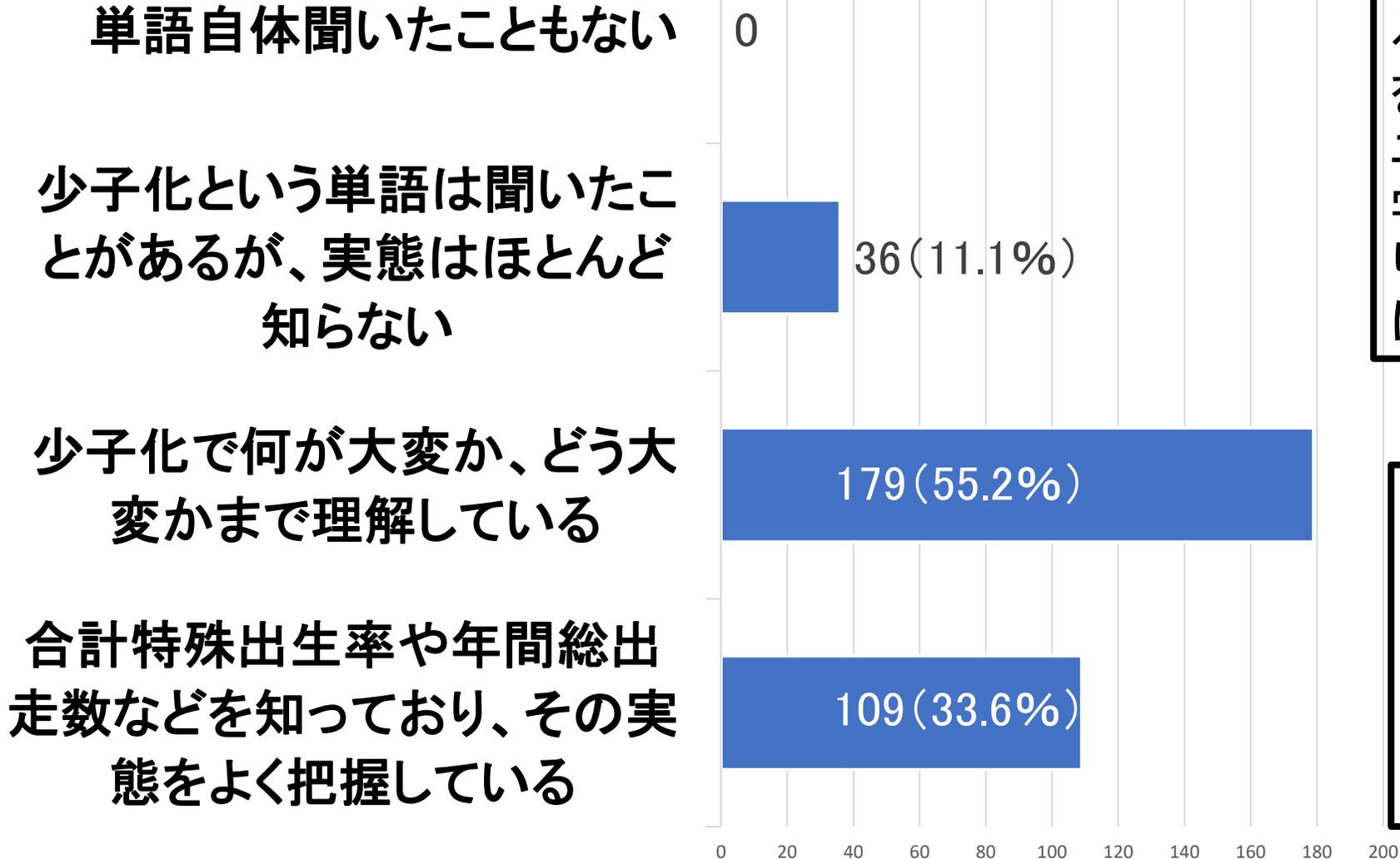
給付型・返還減免型の制度があると、育児支援・進学支援として強力なものになる可能性がある

すべての学生が現行制度を正確に理解しているとは限らない傾向が……
 ⇒様々な制度について若い世代が知る・学ぶ機会を設け、制度の利用者の声を把握することも重要！

(3) 少子化問題・対策への理解・ 意見等は？



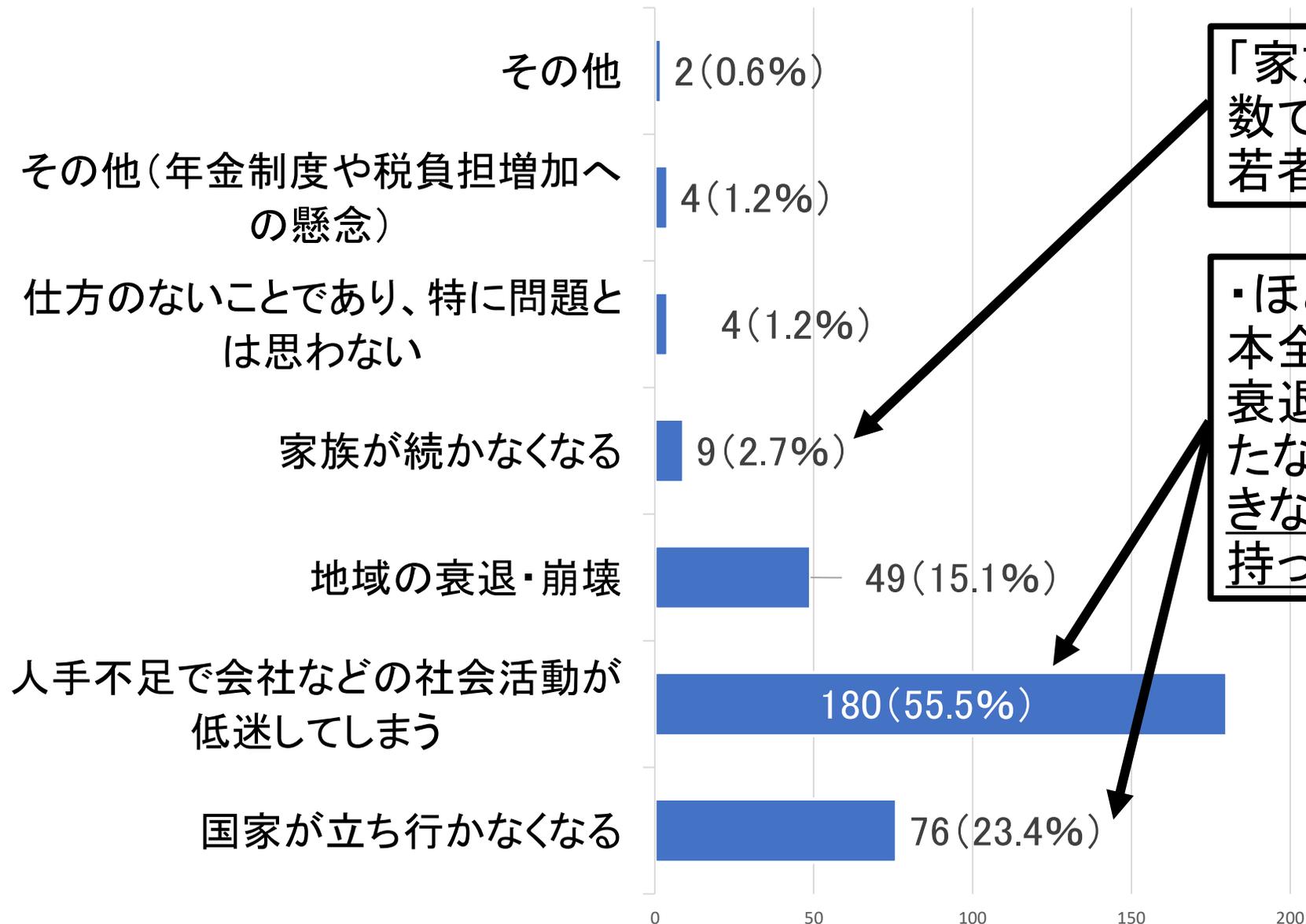
少子化の現状・課題を知っているか？



・ほとんどの学生は少子化への現状・課題を理解している。
・最近の政府や自治体による少子化対策の盛り上がり
を背景に、テレビやネット
ニュースなどのメディアや大
学などの講義などでもよく取
り上げられるようになったこと
によるものと思われる。

・問題自体を把握していない
学生は11.1%と少数ではあつ
たが、これから生きる若い
世代が問題を正確に理解し、
個々人が意見を持つことが
必要である。

少子化が抱える一番の問題は何だと思うか？



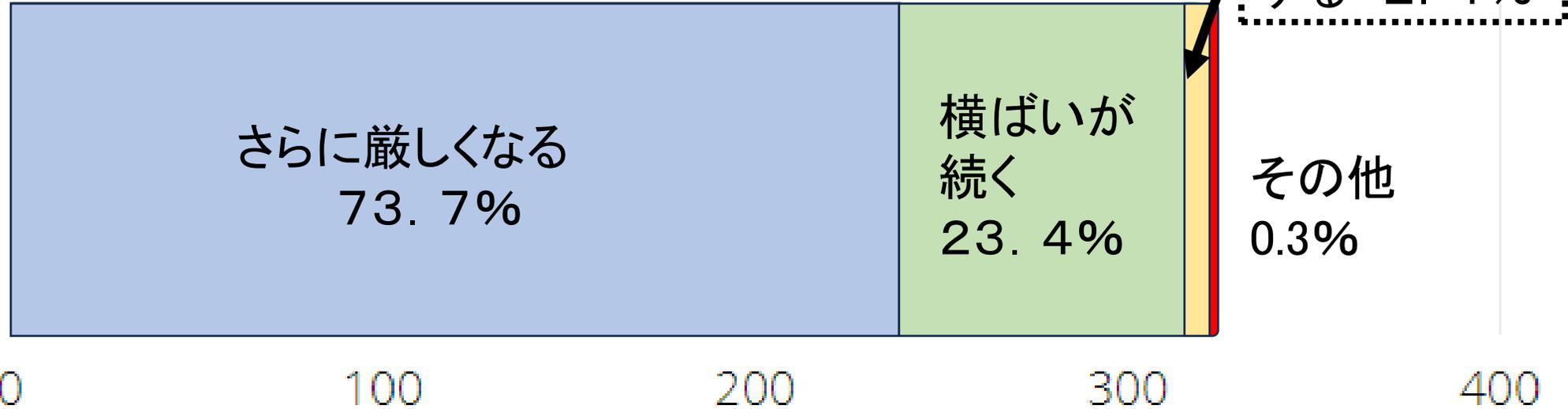
「家族が続かななる」は極めて少数であり、「跡取り等」を意識する若者自体が減ってきている。

・ほとんどの学生は少子化が日本全体へ影響を及ぼし、社会が衰退していくこと、国家が成り立たなくなってしまうことといった大きなスケールでの問題意識を持っている。

・若者たちの問題意識を社会全体で共有し、取り組みの共通認識を持つような施策が求められると思われる。

今後、少子化はどのように推移すると思うか？

今後の少子化は



- 少子化の展望については想定よりも悲観的な見方が多数を占めた。
- この背景には、これまでにみてきた「若者の恋愛率の低さ」や「自分や周りが結婚や子供を持つことについて意欲が薄い」、「経済面での不安」など様々な理由があると、体感している。
- 有効な政策を打ち出せない行政不信もあるかもしれない。

- 現状の合計特殊出生率よりも低下すると、数百年も持たずに日本が崩壊・消滅しかねないため、そのことを若者がきちんと把握し、一人一人ができることを考え、行動することが重要である。

行政が「少子化対策」を講じること、その程度をどう思うか？

その他(あきらめて社会が回るほかの方法を模索すべき)

1 (0.3%)

その他(ほかの政策を模索すべき)

5 (1.5%)

行政が介入すべきでない

9 (2.7%)

他の必要な政策とバランスをとって取り組むべき

197 (60.8%)

最優先で取り組むべき

112 (34.5%)

・「結婚・子育て」は個人的なものであり行政が介入すべきでない」との意見は極めて少数であることを再認識した。

・他の政策とのバランスをとって少子化対策へ取り組むべきとの意見が多数であったが、「最優先で取り組むべき」も34.5%もあり、先にも挙げた危機感が現れている。

『異次元の少子化対策』への評価

全面的に支持する	81 (25.0%)
予算のかけすぎが不満であるがおおむね支持する	141(43.5%)
予算のかけすぎから支持しない	33 (10.1%)
内容面での不満から支持しない	48 (14.8%)
そもそも行政がかかわるべきでない	6 (1.8%)
その他(実現するか怪しいと思う)	4 (1.2%)
その他(不十分である)	6 (1.8%)
その他	5 (1.5%)

・「予算かけすぎ」は調査時に話題となっていた「3兆円半ばの予算での児童手当の拡充等」を例にあげて質問

・「予算のかけすぎ」には過半数が疑問・不満を持っていることが判明
⇒「予算と政策の関係」を明確にすべき

居住自治体の少子化対策の評価

かなり積極的に行っている	28 (8.6%)
ほかの自治体並みに行っている	111 (34.2%)
知らないのでわからない	177(54.6%)
不十分	2 (0.6%)
その他(あまり行っていない)	6 (1.8%)

・「知らないのでわからない」が半数以上を占めた。
若者に地域や自治体の施策情報が自然と入るような広報の取組み、若者自身も関心を持っていくべき。

結婚へのイメージ(自由記述)

■ 自立した者同士で成り立つ、生活のための収入や精神の安定が必要、全ての結婚が幸せであるとは限らない、などのイメージ。

■ ネガティブな意見も…

- ・ 自由な時間がなくなる
- ・ 親戚付き合いがめんどくさい
- ・ 性格の不一致などの要因でストレスがたまったり、離婚する
- ・ お金の自由がなくなる
- ・ 仕事との両立が大変

■ 個人的には、結婚して以前よりずっと幸福になる人と、不幸になる人として極端に分かれるイメージがある。語弊があるかも知だが「一種の人生をかけた博打」とも思える。

子育てへのイメージ(自由記述)

■周りの人に感謝を感じるものしかし、最近は地域の繋がりが弱く、子育てしにくく感じる。

■子どもが小さい頃は体力的にきついイメージ。私は奨学金の返済があるので正社員で仕事を続けたいが、いくら保育所などを利用したとしても、昼間は働き朝晩には子育てをするという生活は自分には耐えられないと思う。子どもが大きくなったら経済的にきついイメージ。自分が高い学費を払って大学に通っているからこそ、特に大学にかかる費用が心配。

■親の収入次第で子供の人生が変わると思う。

こんな社会に
なったらいい
なあ！



子どもを「作る・作らない」
「結婚したいけど/子供を持ちたいけど経済的に…」
と考えなければならない悲しい社会を脱出して
「結婚したい」、「子供を持ちたい」人が
安心して結婚・出産子育てをできるように

アンケートの回答 & 自由記述をヒントにゼミメンバー
からでた政策(例)を、以下に提言いたします！

○物価高の抑制、市場価格の調整・管理
(あるいは物価高に応じた賃金上昇)

○学費支援

給付型奨学金の充実

無利子の貸与型奨学金の範囲拡大

→親の収入を条件としない

○就労支援や賃上げなど、

…市民の自立を促し結果として個々人の経済が充実する支援
の充実

○現行の支援を若い世代が知る機会を増やす

- 生活していて自然と目にするような形での広報
- SNSを活用した広報

○結婚や子育てについて話し合う/考える機会・内容の充実

- 最低小中高一回ずつ設ける
- 子育て経験(男性も)の喜び・苦勞を具体的に意見交換できる機会を

○育児休業などの制度の充実と、性別問わず取得しやすい職場環境づくりの推進